

歯科・薬剤師連携事業に関するアンケートの実施について ～薬剤関連顎骨壊死予防の取り組みとして～

アンケート結果報告

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年末（12月12日～22日まで）に実施した上記アンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。会員薬局204件中64件の薬局の先生方に回答をいただきました。

アンケート集計結果をお知らせいたします。

このアンケート集計結果については、令和6年1月11日に一般社団法人小倉歯科医師会で行われた令和5年度第1回地域医療研修会で発表させていただきました。

ビスフォス フォネート (BP製剤)	ダイドロネル、ボナロン、フォサマック、ベネット、アクトネル、リカルボン、ボンビバ、リクラスト、アレンドロン、ボノテオ、リセドロン酸Na、テイロック、ゾメタ、アレディア、パミドロン酸など
デノスマブ	ランマーク、プラリア
ロモソズマブ	イベニティ
選択的エストロゲン受容体モジュレーター SERM (サーム) 製剤	エビスタ、ビビアント
テリパラチド	テリパラチドBS、フォルテオ、テリボン
アバロパラチド	オスタバロ

※上の表の色の付いている薬剤が顎骨壊死を起こすリスクがあるとされる薬剤です。

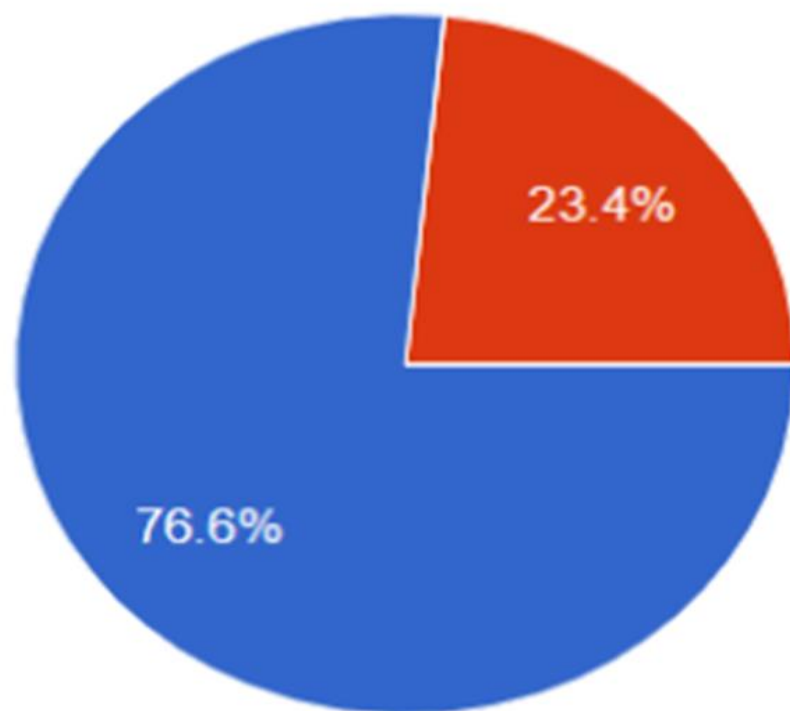
小倉薬剤師会 薬剤関連顎骨壊死アンケート

【目的】 処方薬に関する服薬指導において、口腔管理も重要なものと考えられ、更なる連携強の観点から、医師・歯科医師・薬剤師が連携して「薬剤関連顎骨壊死」の予防に関する取り組みを行うため

今回の調査では、薬剤関連顎骨壊死を起こすリスクが高い薬剤（ALA）について調査を行いました。
BP剤の注射剤、癌治療（骨髄腫、骨転移）に使われるランマークについては、今回、割愛させていただきます。

質問1 貴薬局においてビスホスホネート製剤(以下BP製剤という)の処方は
ありますか？

64件の回答

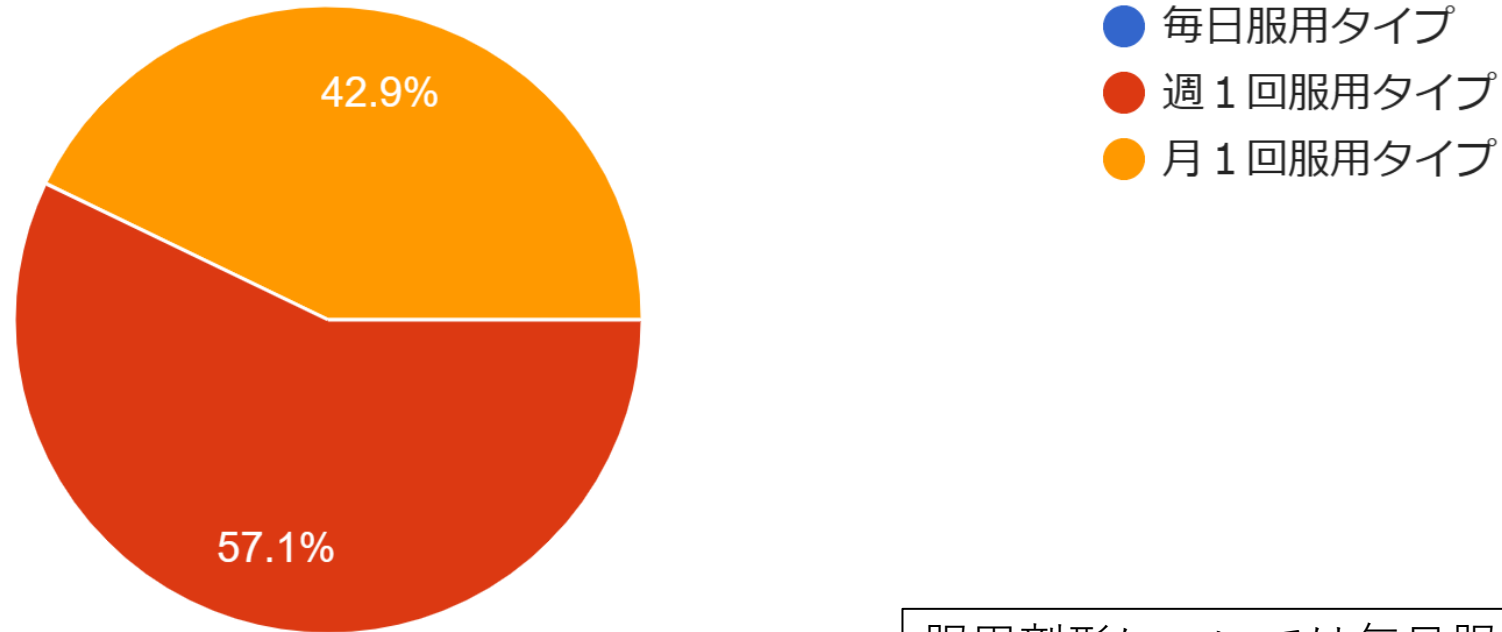


● はい
● いいえ

この質問で75%以上の薬局でBP剤の
取り扱いがあることが分かりました。

質問 2 BP製剤の中で 1 番多く使用されている服用剤形は？

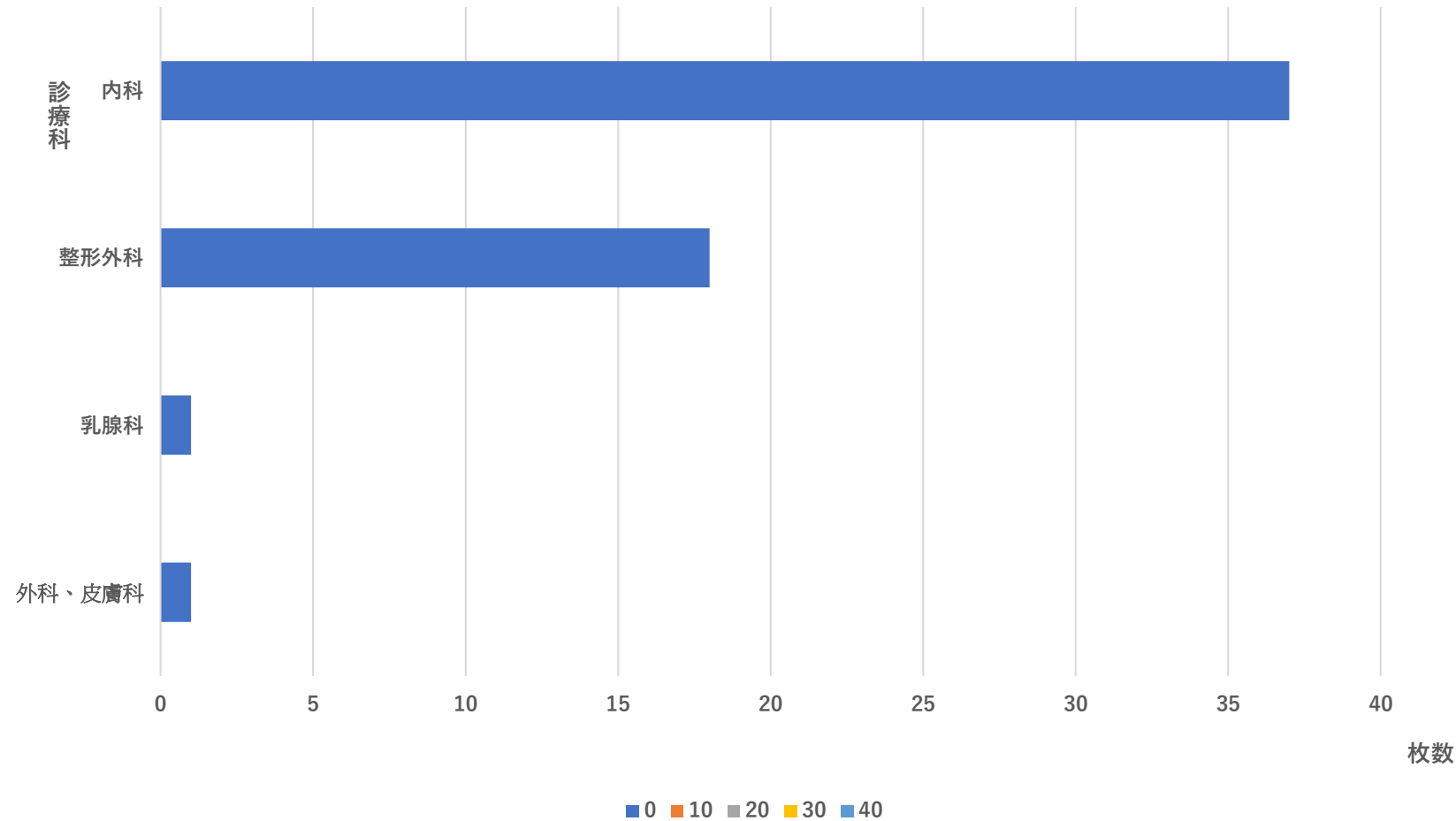
49 件の回答



服用剤形については毎日服用タイプの処方ほぼ無く、結果として、週 1 回服用タイプが一番多く処方されており、続いて月 1 回服用タイプとの結果となりました。推測として、服用の順守事項が多いため短時間型から長時間型に移行している事が推察されます。

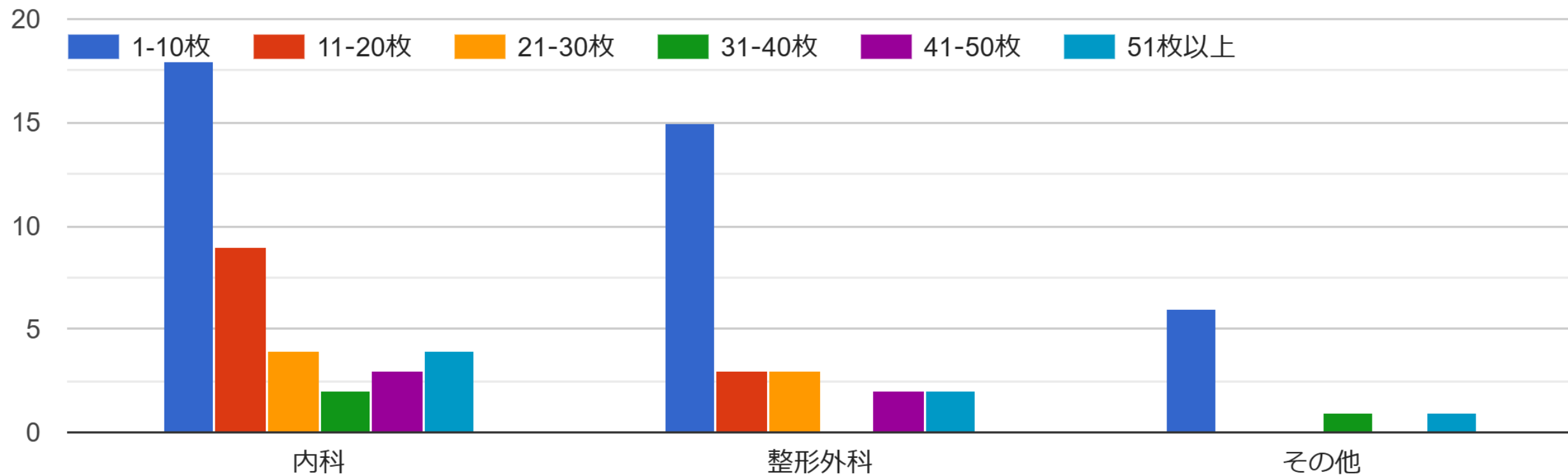
質問3 BP製剤の処方元は主にどの診療科に該当しますか？(複数回答可)

49 件の回答



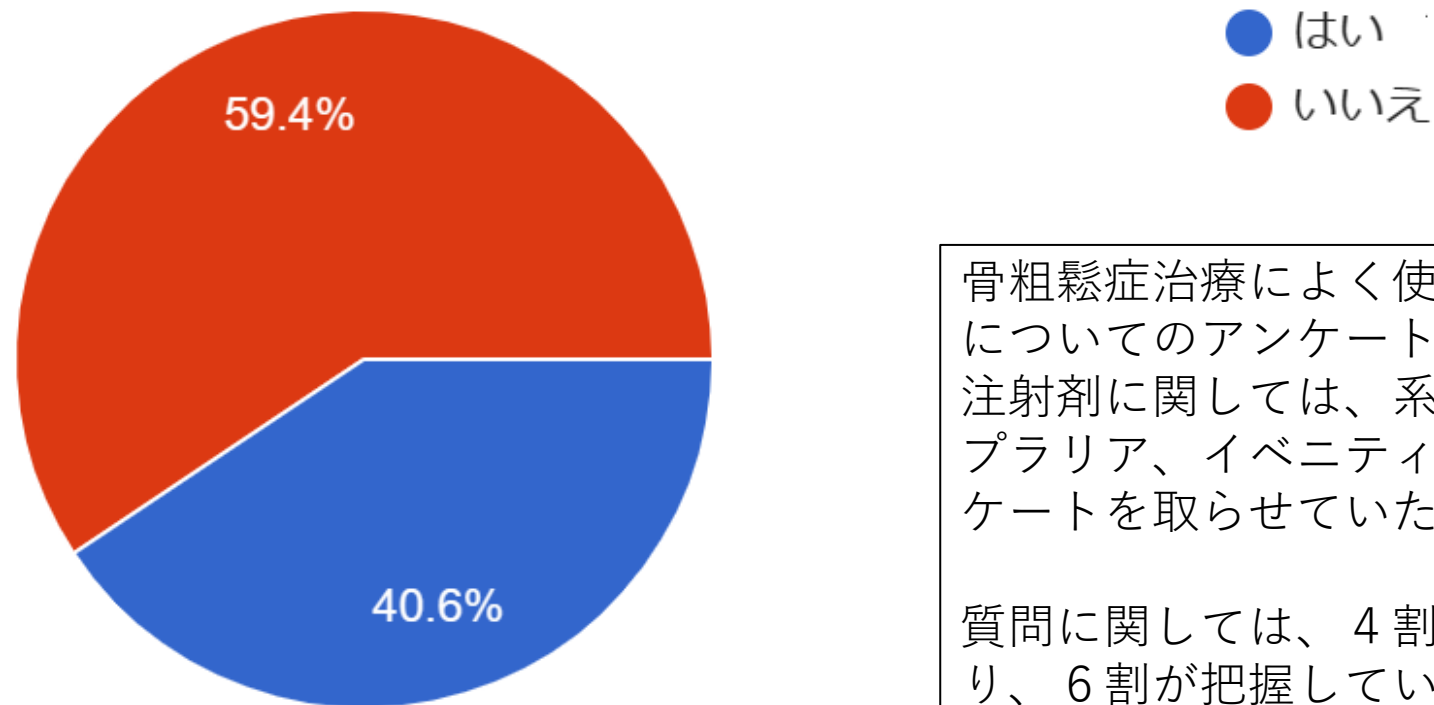
BP剤が1番多く処方されているのは、内科で、続いて整形外科、乳腺科、外科・皮膚科となっております。

質問4 上記ご回答のBP製剤の（R5.11/1～11/30）までの処方枚数は？



質問5 貴薬局においてプラリア、イベニティの使用中の患者を把握されていますか？

64 件の回答

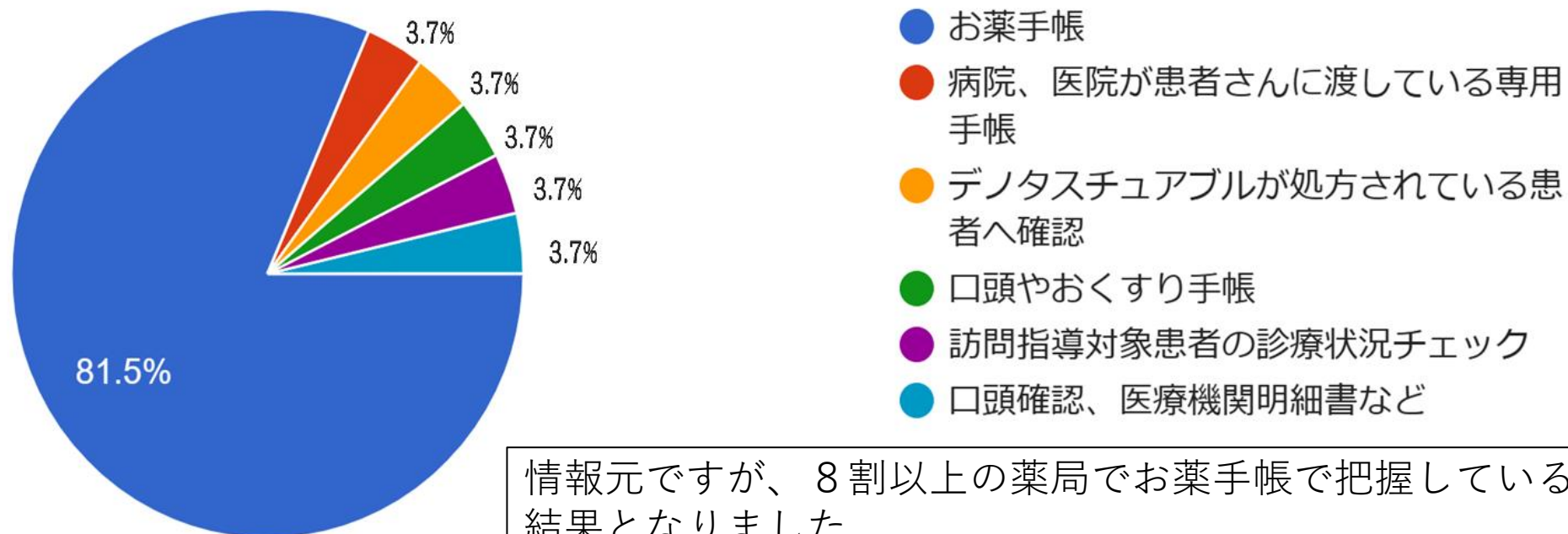


骨粗鬆症治療によく使用されている注射剤についてのアンケート結果となります。注射剤に関しては、系統は違いますが、プラリア、イベニティ 2 剤に関するアンケートを取らせていただきました。

質問に関しては、4 割の薬局が把握しており、6 割が把握していないとの結果となりました。

質問6 それはどのような方法で把握されていますか？

27件の回答



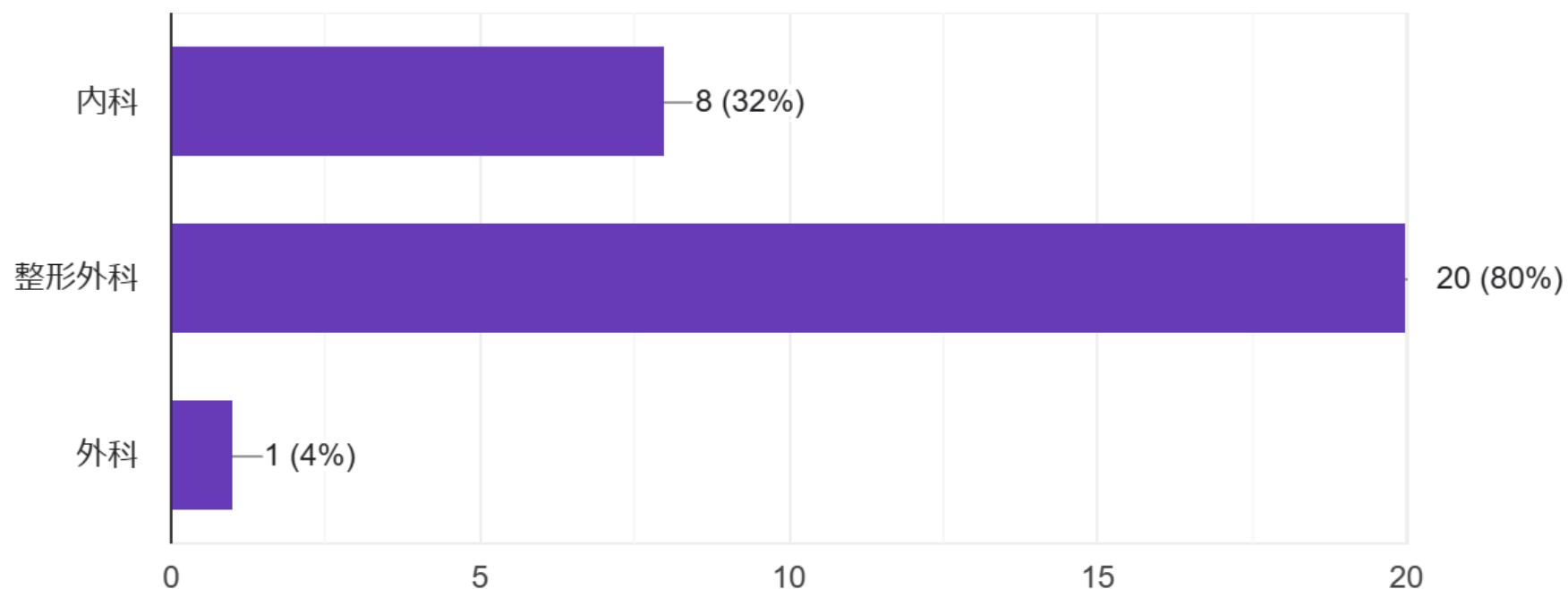
情報元ですが、8割以上の薬局でお薬手帳で把握しているとの結果となりました。

専用手帳での確認は、患者さんが薬局で提示しない限りなかなか把握が難しいのが現状です。

デノタスチュアブルは、抗RANKLE製剤のプラリア、ランマーク使用中の低カルシウム血症予防で処方される薬剤ですので、処方箋にこの薬剤が出ている場合、プラリア、ランマークを使用していることが推測する事ができます。

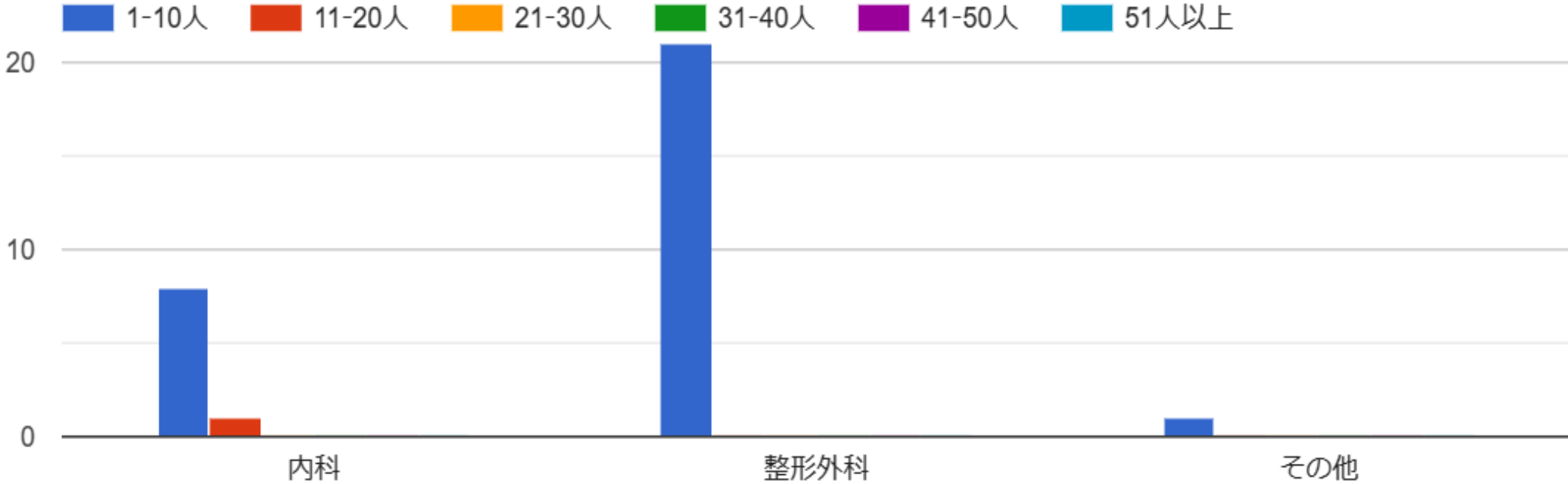
質問7 プラリア、イベニティ使用中の患者は主にどの診療科からに該当しますか？ (複数回答可)

25 件の回答



注射剤に関しては、整形外科での処置がかなり多くなっております。
内服BP剤とは真逆で整形外科での使用が多い事が分かります。

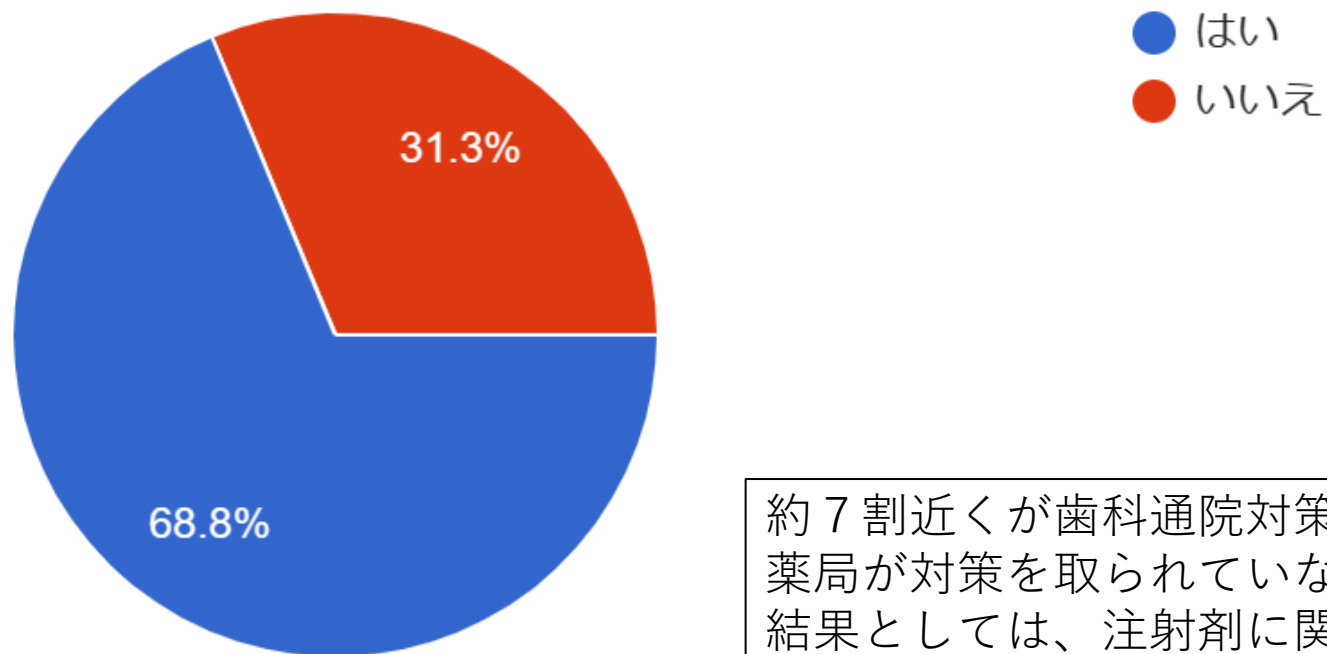
質問8 薬局で確認できているプラリア、イベニティ使用中の患者は述べて何人ですか？(複数回答可)



薬局で把握できている範囲内での注射剤使用中の患者数となりますが、整形外科での使用が多く、把握できていないという薬局も多いのでさらに調べると増える可能性はあると考察できます。

質問9 BP製剤、プラリア、イベニティ使用中の患者に対して歯科通院中、通院
予定の確認は取られていますか？

64 件の回答



約 7 割近くが歯科通院対策を取られており、3 割以上の薬局が対策を取られていないという回答となりました。結果としては、注射剤に関しては薬局での歯科への通院対策はあまり積極的に行われていない事が推察されます。

質問10 歯科通院中、通院予定の患者に具体的にどのような指導を行われていますか？

44 件の回答

抜歯の確認と必ず歯科医師に骨粗鬆症の薬を飲んでいることを言うように伝えている

使用している旨、歯科医師に伝えるよう説明している

BP製剤を初めて投薬する際、薬剤変更の際に、歯科の治療内容によっては休薬することもある為、必ず医師にBP製剤の服用について伝えるよう指導。その後は時々歯科通院今ありますか？と確認している。メーカー作成の患者指導せんは必ずお渡ししている

お薬手帳を持参されるように伝えています

抜歯やインプラント等、大きな治療をする場合は必ずこの薬の服用を歯科医師に伝えてくださいと伝えています

服用日を忘れないように指導したり、日常的に口腔内の衛生に努めるように指導しています

副作用の観点からBP製剤、プラリア、イベニティを服用・注射していることを歯科医師に伝える様指導している

丁寧なブラッシングと、定期的な歯科受診、受診の際のお薬手帳提示

BP製剤服用開始した旨を歯科医師に伝えるように説明(抜歯の際に休薬の必要がある場合あり)

質問11 歯科通院中、通院予定の患者さんへ指導をされていない主な理由としては、何が挙げられますか？

病院、医院が専用の手帳を渡しているので薬局では指導は行っていない

処方医から歯科治療についての指導がなされている

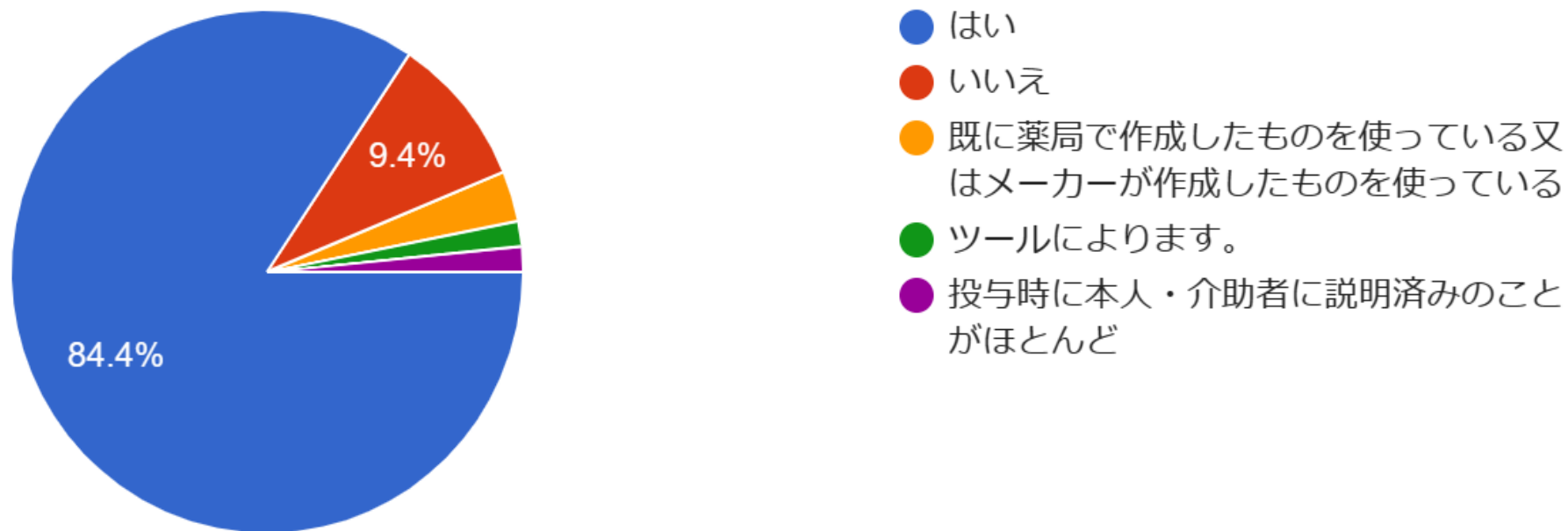
認知症のため介護スタッフ・医師が掌握済み

特に注意が必要な薬剤を使用していないため

BP製剤等、他薬局での調剤である

質問12 今後、BP製剤、プラリア、イベニティ使用中の患者に対し薬剤関連顎骨壊死に関する「お薬手帳や保険証、マイナカード」等に貼るツールがあれば使ってみたいですか？

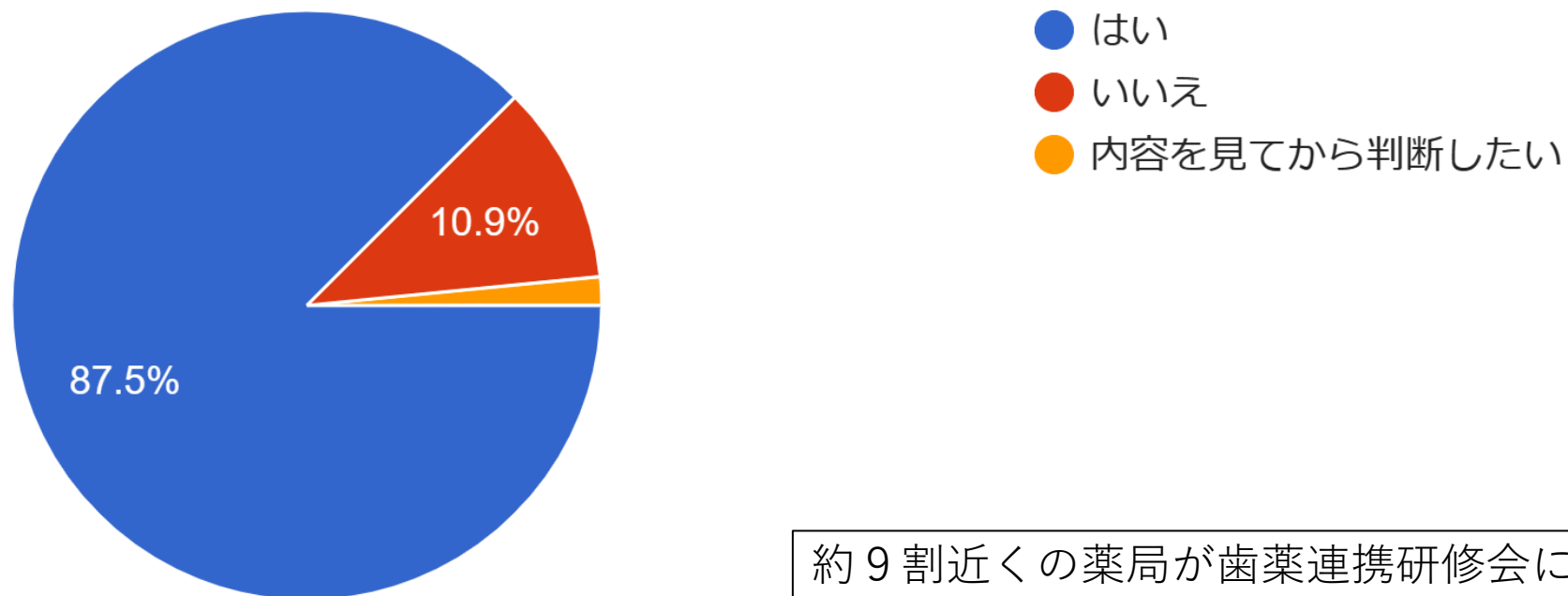
64 件の回答



84%の薬局が使ってみたいとご回答いただきました。今後、医歯薬連携し、患者向け配布物等も含め検討していく必要があると考察されます。

質問 1 3 今後、歯薬連携の研修等があれば参加してみたいですか？

64 件の回答



約 9 割近くの薬局が歯薬連携研修会に参加したいとの結果となりました。
この結果を踏まえ、今後学術委員会とも連携していき薬剤師会会員に歯科連携研修会を企画していきたいと思います。

質問は以上です。他に日常の業務で歯科と連携していきたい事やご質問等あればご記入お願いいたします

在宅では口腔ケアも大事ですが、やはり食べることは薬よりも運動よりもまず大事なことです。終末期医療に関しても最後は癌で亡くなるのではなくて、食事がとれなくなって亡くなります。最後まで口から食事がとれるように歯科医師との連携は必須だと思います。

アンケートにはありませんが、ランマークやリクラスト点滴使用中の患者様もいらっしゃいますので、そのようなものも含めて情報連携ができればと思います。糖尿病患者様にも歯科定期受診の指導をしていますが、そのような連携のシール等もあればと思います。

歯磨きの仕方が良いか悪いかの判断とどのくらい時間をかけるとよいかと口腔が清潔でしたら、感染症にかかりにくいですか？

研修会後のコメント(一部抜粋)

一般社団法人 小倉歯科医師会 増井聡 副会長 より

昨夜は先生方のお陰で盛況な研修会となりました。

心より感謝します。他職種と交わることで見識を広めることができました。

今回の研修会で終わりではなく、市民の健康を守るべく連携を進めていきたいと考えていますので新たな提案をさせていただきますのでご協力ください。

簡単ではございますが、本当にありがとうございました。

公立大学法人 九州歯科大学 口腔内科・口腔外科准教授 吉賀 大午 先生より

MRONJ(薬剤関連顎骨壊死)について多職種で熱いお話ができて、また大変実りある会となり、私も参加させていただいたことに感謝しております。

今後も医歯薬連携でMRONJで悩む患者さんに貢献できれば幸いです。

今後ともよろしく願っています。